

## 見学調査報告書

---

テーマ : 「東京港」をテーマとする自由研究/超ハイテク大型総合物流センターの実態  
ゼミ名 : 山本 慎悟ゼミ  
調査日 : 2019年6月25日(火)  
調査先 : 東京港、ヤマト運輸羽田クロノゲート  
授業科目名 : ベーシック演習Ⅰ・専門演習Ⅰ  
参加学生数 : 15名(1年)、2名(3年)

### 調査の趣旨(目的)

#### 【東京港】

東京港が我々の暮らしとどのような関わりを持っており、どのような役割を担っているかを知る。

#### 【ヤマト運輸羽田クロノゲート】

ヤマトグループが運営し、スピード・付加価値機能等を提供する日本最大級の大型総合物流センター「羽田クロノゲート」の実態を探る。

### 調査結果

#### 【東京港】

東京港視察に先立ち、各自で「東京港」をキーワードとして自由にテーマを設定し、当該テーマに基づく事前調査を行った。主として東京港の成り立ちや我々の暮らしにおけるその役割、また貨物取扱量や国際競争力等、国際貿易港としての東京港にスポットを当てた。

その後、東京都港湾局が運行する視察船「新東京丸」に乗船し、東京港の視察を行った。東京港は首都圏最大の国際貿易港として我々の生活や産業を支える重要な物流拠点となっている。周辺にはコンテナ貨物や、自動車、木材等を取り扱う専用の埠頭が数多く設けられていると共に多くの船舶が航行・停泊しており、まさに貿易取引の玄関口として機能し、我が国の経済を支えていることを体感できた。本視察を通じて得られた情報や感想を基に各々中間報告書を加筆修正し、最終報告書としてまとめた。

#### 【ヤマト運輸羽田クロノゲート】

ヤマト運輸羽田クロノゲートは、日本最大級の物流ターミナルとして2013年9月に完成した。ここでは、羽田という立地を生かして陸・海・空の「スピード輸送ネットワーク」と高度な「付加価値機能」を一体化している。今回の見学調査では、物流棟2階の荷物が仕分

けられているエリアを実際に見学した。なお、物流棟は、1・2階の「仕分けエリア」と3～7階の「付加価値エリア」に分かれている。

驚いたのは、2階の仕分けエリアには、人がおらず、全て自動で機械が仕分けをしていたことである。物流棟の1階に届いた荷物は、トラックから人の手によって降ろされると、1～7階まで繋がるスパイラルコンベアというもので各階まで運ばれる。仕分けされる全ての荷物には、バーコードシールが貼られており、2階にあるスキャナーの下を通ると行き先や大きさなどの情報が自動で読み取られる。そして、荷物は、全長1,070メートル、時速9.7キロメートルの速さで動くクロスベルとソータという名前がつけられたコンベアーに移動する。このクロスベルとソータには、セルと呼ばれる黒い板が1,336枚も並べられており、セル1枚につき1個の荷物が自動で置かれていく。このセルは、スキャナーで読み取った行き先情報を把握している。そのため、クロスベルとソータに乗った荷物は、セルが把握している情報をもとにして、行き先が設定された48本のシューターで全国70のベースごとに仕分けされる。24時間365日稼働しているこの施設では、最大で1時間に48,000個、10トントラックに換算すると75台分にもなる多くの荷物を処理することができる。

「付加価値エリア」については、映像を見て学ぶことができた。3～7階の「付加価値エリア」では荷物を止めることなく、流れの中で付加価値を付けている。例えば、7階のメディカルセンターでは医療用器械の洗浄やメンテナンスを行っている。病院の手術で使われる医療用器械は、必要に応じてレンタルされることがあり、ここでは使い終わった器械を洗浄し、動作確認などを行う。そして2階に運ばれ、全国各地の病院にスピーディに届けることで、リードタイムの短縮を可能にしている。また、同じく7階のメンテナンスセンターでは、主に家電メーカーの商品の修理を行っている。家電製品を中心に、修理に関する問い合わせから引き取り、点検、修理、お届けまでをフルサポートしている。横浜からの問い合わせであれば、引取りから最短2日で届けることができるそうだ。

他にも3階での通関業務、5階の東京法人サポートセンターによる家中サービスや6階のオンデマンドセンターによる印刷サービスなどさまざまな業務を行っている。

このように、羽田クロノゲートでは人と機会の両方の力で今までの宅急便に、「付加価値」を付けることによって、「より早く、より高い品質」を追求した『バリュー・ネットワーキング』構想の実現を可能としている。

青海客船ターミナル棧橋にて



ヤマト運輸羽田クロノゲート見学棟出入口にて

